

医心 伝心

本年のスギ花粉は 「平年よりやや多い」

富山県医師会理事 河合 晃充

さて、年が明けて令和6年となりました。スギ花粉の飛散開始が近づいてきています。富山県森林研究所は、11月下旬に県内11カ所で行ったスギ雄花の着花量調査の結果を踏まえて、今年のスギ花粉飛散量の予測を発表しています。それによると今年のスギ花粉飛散量は平野部で1cm²当たり約5,300個程度と平均値の3,334個の1.6倍程度で、令和5年（8,381個/cm²）の60%の飛散量となります。スギ花粉の飛散量は雄花が着花し始める夏の天候に強く影響を受け、気温が高く降水量の少ない年ほど多く着花する傾向があります。中でも日照時間が最も関係が深いとされています。令和5年は、7・8月の平均日照時間は253.6時間で、平年（178.5時間）より多くなったことから、雄花の着花も平年よりやや多くなったと考えられます。スギ花粉の飛散量は一年おきに豊凶を繰り返す傾向があります。昨年は非常に多い飛散数であったため、今年は少なくなる可能性があります。ここ数年徐々に花粉量は増加傾向にあることより、昨年よりは少ないものの、平年よりはやや多い飛散量予想に落ち着いたようです。

県医師会花粉症対策委員会では10年前より、ウェザーニュース社のリアルタイムにスギ花粉の飛散状況が把握することができるポールンロボを県内各地に設置し、誰でもが無料で情報が得られるサービスを始めています。今年も県内9カ所に機器を設置し、県医師会のホームページよりリンクという形で情報提供を行う予定です。昨年は非常に飛散数が多かったため、多くの方に利用していただいたようです。また、従来のダースラム法という方法を併用し、正確性の確認を並行して行ってい

ます。今迄の検討では、飛散の状況は正確に反映しているようです。

花粉の飛散開始は1月からの積算温度がある温度に達すると開花し、飛散が開始されます。今年は暖冬傾向の予想であるため、花粉飛散開始は早くなる可能性があります。花粉症に対しては本格飛散開始の2週間ほど前からの初期治療が有効であるとされており、早めの対応が必要と思われます。

昨年の患者動向調査では、花粉飛散数が非常に多かったことと、感染対策のマスク着用は減少していることもあり、医療機関への受診者は増加しており、抗アレルギー薬のotc化等々により、セルフメディケーションの意識の高まりも影響があるものの、飛散数が多い日前後は受診者が急増・集中する傾向があります。このため最新の状況を活かしていただくには、できるだけ早い情報提供が大切だと思われます。ウェザーニュース社からの機器の配布もより早くなっており、早めの情報提供体制を整える予定です。また、本格飛散が始まってからの飛散量は降水、風速及び風向といったその時期の気象条件によって大きく変化します。昨年は予想に反して大量飛散となりました。適切な対応や治療法の選択には迅速で正確な情報が必要とされます。県医師会ホームページのリアルタイム花粉飛散情報ページに一定のアクセスを頂いており、情報を有効に利用して頂ける環境が整っています。また、新聞やテレビなどでの飛散予測をご利用して頂いている方も多いことと思われます。少しでも皆様に貢献できるように調査および情報発信を行っていこうと思っています。